令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　鴨生田　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

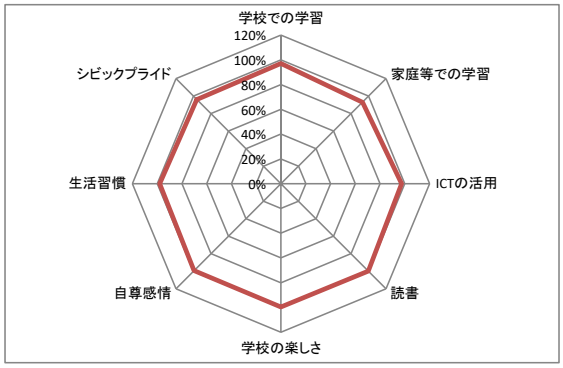
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な 傾向や特徴など	「話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解する力」や「原因と結果など情報と情報の関係について理解する力」は養われている。「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力」や「間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整える力」については、課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の種類とその特徴について理解する問題 原因と結果など情報と情報の関係について理解する問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける問題 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題	

算数	全体的な 傾向や特徴など	全国平均正答率を上回る問題も多かったが、後半以降の問題で全国平均正答率を下回る問題が多く見られた。特に、「目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する力」や「示された二つの数量の関係について、基準量や比較量を明確にして割合を用いて考える力」については、課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	正三角形の意味や性質について理解している問題 求め方や答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する問題	
	努力が必要な問題	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題 百分率で表された割合について理解する問題	

4．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・多くの項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均の割合と同程度であった。特に心の育ちに関する「学校が楽しいか」や「友達関係に満足しているか」などの問いに対して、約87％の児童が肯定的に回答している。一方で、学びの育ちに関する「平日や土日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をするか」などの家庭学習についての問いに対する回答が全国平均を大きく下回っている。
・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童の自己有用感や学習意欲等に大きく影響を与えている可能性があるため、学校全体で授業改善や家庭学習推進の取組を進めていく。
・「ICTの活用」については、授業だけではなく家庭学習においても活用できるように、教師が進んでICT機器を活用した授業づくりを進めていく。
・毎日の朝食や起床・就寝時刻などについては、全国平均をやや下回っている。保健指導等を通して、生活習慣を整えることの大切さを喚起していく。

5．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

国語科では、特に「書くこと」に課題が見られた。そこで、事象を説明したり意見を述べたりするなど考えたことや伝えたいことを書く活動や、事実や経験を基に感じたり考えたりしたことを文章に書く活動を、国語科の学習だけではなく様々な教科の学習場面で設けていく。算数科では、どの学年においても家庭学習や朝の学習時間などの場面を活用して、整数・小数・分数の計の反復練習を行い計算力を高められるようにする。また、表やグラフなどの特徴を正しく読み取り判断したり、結論について多面的に考察したりすることができる力を高める活動を通して、データを活用し問題解決につなげる力を向上させる。

②　家庭生活習慣等に関する取組

学期末に「家庭学習チャレンジ週間」を設け、家庭学習に計画的に取り組めるようにしている。また、その期間中GIGA端末の学習アプリを活用して、個々の課題に応じた学習ができるように支援している。保護者へも手紙を配布し家庭学習の行い方を啓発することで、家庭学習の意識が高まってきている。
基本的な生活習慣の定着については、特に携帯電話やスマートフォンの使用ルールを家庭内で話し合えるように、児童や保護者へ啓発を続けていく。